

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

本市は、リニア中央新幹線の開業を千載一遇の飛躍のチャンスと捉え、社会を支える「ひとづくり」や強靱で質の高い「都市づくり」を中心に、未来につながる好循環を生み出す投資を積極的かつ戦略的に行うことにより“住みやすさ”“強い経済力”“にぎわい”“持続可能性”を兼ね備えた世界から選ばれる7,000万人規模の世界最大の都市圏スーパー・メガリージョンの中心都市を目指します。

今後、人生100歳時代を迎え、アクティブシニアが増えるとともに、一方では、テレワークが普及し、就業の時間や場所のフレックス化により、人々の移動が多様化します。ニーズを的確にとらえて、都心域から郊外まで全ての年代の人が移動しやすい大交流都市名古屋を目指します。

さらに、自動車を中心としたものづくり産業の中核都市として、先端技術をまちづくりの中に積極的に取り入れ、都市の新たな価値を創造し続けることで、都市の魅力と利便性の向上を図り、本市及び圏域の持続的な成長をけん引します。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
・本市を含む中部圏は、世界を代表する輸送機器製造業を始めとするものづくり産業と、最先端の研究開発を行う知的基盤が集積している。一方で、AI、IoT化等の進展は、産業構造に劇的な変化を生じさせると予想されており、産業と知的基盤の緊密な連携による新たな価値の創出ができなければ、圏域及び我が国の活力の源泉を失いかねない。 ・新たな価値の創出はスーパーメガリージョンの中心に位置する名古屋の都心部を舞台として多様な人々が交流することにより生み出していく必要があるが、名古屋市の都心部では、広幅員道路が格子状にまちを分断しており、歩行者や高齢者などの移動を妨げ、まちの賑わいや交流を阻害している。 ・名古屋市の基幹的公共交通を担う地下鉄は、公営で全国第2位の営業キロを誇るネットワークを整備しており、また、市営バスが市域全体に渡り一元的に運行しているが、道路率が全国第1位と自動車が利用しやすい環境にあるため、東京、大阪と比較して自動車分担率が高くなっている。さらに、今後、生産年齢人口の減少に伴い、バス事業者において運転手確保が困難となることが見込まれており、持続的な公共交通サービスの提供・名古屋を訪れる人に快適な公共交通を提供できない恐れがある。	(ア)交通・モビリティ (ク)環境

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

○新たなモビリティ

- ・人的資源を省力化できる自動運転技術
- ・まちの賑わい創出のためのスマート・ロードウェイ・トランジット(SRT)導入
- ・ロボットシャトル、シェアサイクルによるラストワンマイルの充実
- ・温室効果ガス削減のためのFCV、EVの導入

○交流空間への転換

- ・自動運転車を利用した移動オフィス等の様々なサービス

○円滑な移動の確保

- ・リアルタイムな移動データの収集と解析技術
- ・移動ニーズに対応した動的な公共交通の導入
- ・渋滞の解消、都心への集中緩和、抑制を図るため、走行経路の制限などのコネクテッドな自動運転車両を活用したTDM

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

○最先端技術を活用した新たなモビリティ体系の構築

- ・まちの賑わい創出のためのスマート・ロードウェイ・トランジット(SRT)導入
- ・環境首都ナゴヤとして、FCバスなどの導入によりモビリティのカーボンフリー社会を実現
- ・街中を回遊できる公共交通と連携した自動運転小型モビリティ等の導入

○道路空間の交流空間への大胆な転換

- ・まちの賑わい創出のためのスマート・ロードウェイ・トランジット(SRT)導入
- ・道路空間の再構築やそれに合わせた建物のリノベーション・再生による新たな交流空間の創出
- ・移動オフィスによるイノベティブな産業の誘発

○動的TDM、MaaSによる円滑な移動の確保

- ・動的なTDMによる都市内交通の最適化
- ・リアルタイムのデータ収集・解析に基づく、機動的な『路線・ダイヤ・頻度』変更などによる、より高度な公共交通サービスの提供
- ・シェアサイクルやライドシェアなど、私的交通と公共交通との融合



様々な先端技術を取り入れた新たなモビリティによる誰もが動きやすい大交流都市名古屋の実現へ

(5) その他

※先行してシステム導入を行いたい地域や、既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、(5)にご記入ください。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
名古屋市住宅都市局 都市計画部交通企画課	伊藤、濱島	052-972-2724	a2724@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp